

## 特別支援学校(知的障害)と小学校との「交流及び共同学習」

### <実践の概要>

学 年	特別支援学校	小学校
	小学部4年	小学部4年
交流学習の時間	10時から11時30分(11月中旬 直接交流時)	
教科・領域等	体育・休み時間	体育・休み時間
実施時期	9月下旬(間接)、11月中旬(直接)、12月上旬(間接)	
単元/題材名「居住地校の友達と一緒に活動しよう」		
主 な 活 動 内 容		
活動内容	備 考(交流の手立て・配慮事項等)	
<p>9:50 居住地校に保護者と登校。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室に挨拶後、校長室で待機。</li> <li>・4年生との交流まで時間があつたため、支援学級の友達と一緒に支援教室でトランプ等をした。</li> </ul> <p>10:15 体育館に集合し、体育の授業に参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生と一緒に整列した。</li> <li>・友達の前で一人で自己紹介を行った。</li> <li>・体育館でサーキット運動に参加した。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①フラフープ</li> <li>②ミニハードル</li> <li>③跳び箱</li> <li>④ミニサッカー</li> <li>⑤集合ゲーム</li> </ol> <p>11:30 全員で集合写真を撮り、お別れの挨拶をして活動終了。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもたせながら待つ時間を調整し、スムーズに活動に移ることができるようにする。</li> <li>・交流前に練習し、自己紹介の内容を記したカードを必要に応じて示すことで安心して発表できるようにする。</li> <li>・体を動かすのが好きな本学児童のために、受入校の担任と相談して内容を設定した。</li> <li>・説明時に手本を見せることで、サーキットの順番や内容を知ってから取り組むことができるようにする。</li> <li>・体を動かしながら安全に交流するために「手をつなぐ」、「グループになる」活動を意図的に設定した。</li> <li>・交流活動をとおして、場所や友達に慣れてから皆と一緒に集合写真を撮影できるようにする。</li> </ul>	

### <実践の成果と課題>

### <これまでの効果的な取組や実践エピソード等>

#### <成果>

- ・直接交流の事前・事後に間接交流の手紙交換を行うことで、交流への意欲を喚起したり、感謝や満足感を伝えたりすることができた。
- ・昨年までの記録を参考に、児童の発達段階に応じた内容を設定することができた。

#### <課題>

- ・サーキット活動の内容を早めに確認し、あらかじめ支援学校で練習する等の事前学習を丁寧に行うべきであった。

- ・今年度、受入校からの初めての便りは、QRコードを読み込むと4年生の児童からのメッセージが再生されるという動画レターだった。容量の大きな動画だがUSBに入れる必要もなく情報漏洩の危険性も低いことから、大変有効な手段であった。
- ・動画を再生するタブレットの画面は拡大することが可能なため、受入校の児童一人一人の表情がよく見え、本学児童も動きを止めて見つめていた。動画内で、学級の全員が声を合わせて「待ってまーす!」と言って手を振ると、「おー。」と返事をするように声を出して手を振り返す様子が見られた。